

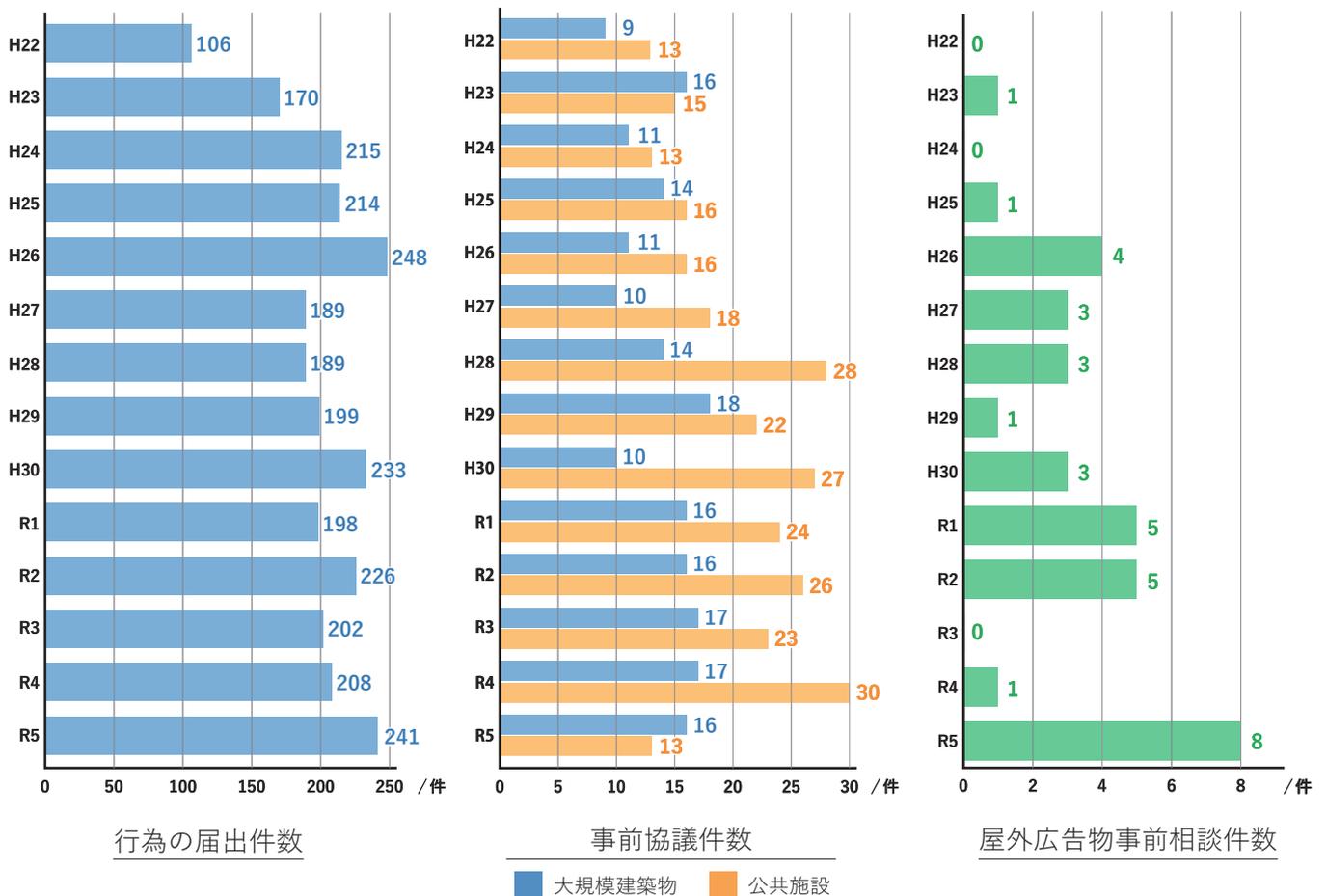
第3章

現状と課題



01 景観づくりの実績

区では、良好な景観づくりを推進するため、景観法による景観行政団体になる前から現在に至るまで、様々な取組を行ってきました。平成22年（2010年）より受付を開始した行為の届出、事前協議及び屋外広告物事前相談の件数やこれまでの景観に関する取組実績については、次のとおりです。



景観づくりやその普及啓発を進めていく中で、オープンハウス型懇談会やアンケート調査などを実施し、区民等から、区の景観についての意見を伺いました。その一部を紹介します。

まちなみ



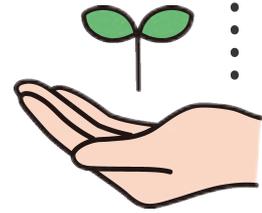
- 住宅街では景観よりも安全面や防災面が第一
- 無電柱化を進めてほしい
- 子どもやお年寄りが外に出たくなる景観があれば理想だと思う
- 街灯やフェンス、ガードレールなどが同系色であると統一感が出てよい
- 地域の歴史的建造物や歴史的景観を保全し生かした活動をしてほしい
- 統一感のある歩道にするだけで、街並みがぐっときれいになる
- 道路整備や区画整理を優先した方が景観が向上すると思う
- 安全な道路や電柱等のメンテナンスをすることで良い景観が保たれると思う
- 財政を考慮するとインフラに経費を投入しないでほしい
- 住宅街の近くに急に高い建物が建つと周辺との調和を図ることは難しいと思う
- 広い屋敷が売却されて樹木が切られてしまっている
- 建物の道路からの距離や建物同士の間隔が近く、歩いていて圧迫感がある
- 今はみどりも減り、ぎゅうぎゅうに家が建ち、同じような外観ばかり
- 高円寺や阿佐ヶ谷は今の雑多な雰囲気的魅力で整えすぎると魅力が減ってしまう
- 大きく見苦しい広告は困るので、近隣住民の意見も聞いてほしい
- 歩道の路面補修をし、統一感のある道路を整備してほしい
- 空き家が多い街は景観も悪化するだけでなく、安全ではないと思う

くらし

- ごみも落書きもなく、快適に暮らしている
- ごみ集積所の清掃に注力してほしい
- 街並みを美しく保つためには管理が大切
- 注意の張り紙ばかりが目立つ
- 中小の小売店が生き生きと商売ができるような環境に回帰してほしい
- 景観を楽しむ憩いのベンチを増やしてほしい



- 樹木の命を守ってほしい
- みどりは、気づいていないけど知らないうちに脳や心に安らぎを与えてくれている
- 公園はみどりが多いゆっくと座って楽しめるものにしてほしい
- 道に大きくはみだしている樹木があれば行政から所有者に指導してほしい
- 樹齢の長い樹木が伐採され続けており、もっと樹木を大切にしてほしい
- 公共の場で、みどりがあまり管理されていない地域が目立っている
- 区道にもっと樹木を植えてほしい
- 敷地が狭ければ、壁面緑化を進めてほしい
- 区の緑地に好きなものを植えてもいい権利があったら嬉しい
- 中央線沿線にもみどりをもっとあるといい
- 杉並には、生産緑地や屋敷林があり、緑に恵まれている
- 個人のみどりの管理を徹底してほしい

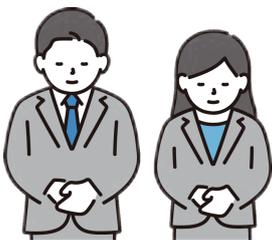


景観施策



けい かん
景 観

- 景観づくりは、地域住民の意見を聞きながら進めてほしい
- 景観づくりの考え方を明確に示してほしい
- 意見ばかり聞くのではなく、まず考えを出すべき
- 区民参加型イベントを開催して、普及啓発をしてほしい
- 人により景観づくりに関する意見は異なるので、良いと思う意見が多い景観を皆に知らせてみてはどうか



200名以上の方にご協力いただきました。

その他ご意見については、P.154をご覧ください。

Q 美しいまちにするためには、 どのようなことをしたらいいと思いますか

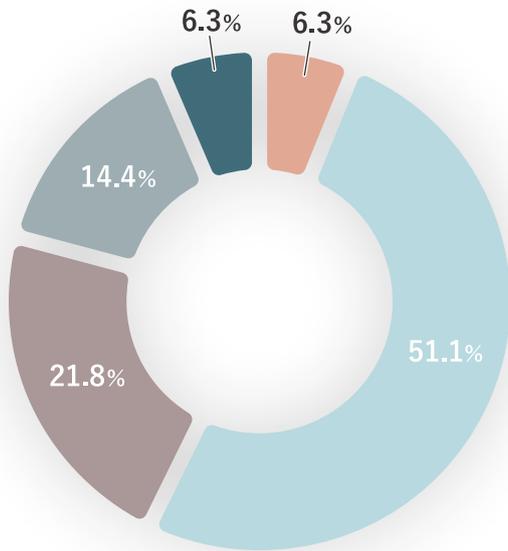
- 毎日ごみがないか確認したらいいと思います
- ポイ捨てなどをできないような雰囲気を作ってごみは家に持ち帰る
- たばこの吸い殻やごみのポイ捨てをなくして、掃除をしっかりすればよいと思う
- 一人ひとりが問題を解決することを意識して生活する
- 木がいっぱいあったほうがいい。カッコいいガラスのビルがいっぱいほしい
- 植物を大事にする
- もう使っていない家をこわして木を植える
- 最新の建物だけではなく、みどりがたくさん自然を少し感じられる町が美しい町だと思います
- 草などを生えないようにするスプレーをまくのをやめたり、一人一人が緑を大切にする
- 日本の花も、外国の花も取り寄せいろいろな年代の方々も美しいと感じる花壇を作ればよいと思います
- ポイ捨ての特にタバコなどが多分木に悪影響だったり、環境に悪影響だからポイ捨てをしづらいきれいな街を作ったらいいと思う
- 家全部に虹色を塗る
- ビルを建ててその下らへんに緑を植える
- 芝生の公園や、広い公園を作る
- 草や、木だけではなく色とりどりの花を植える
- 木は天然じゃなくて人口の木だったら葉っぱも落ちなくて穏やか
- 街路樹など木を植えると、季節を感じられるのでいいと思います。また、下に草花を植えると、花畑みたいで美しくなると思います
- 緑を増やしたり、壁の落書きなどを消したり、空き家などをできるだけ早く取り壊したり空き家になる前に対策をすると美しい街になると思います。
- 駅周辺は都心のように明るくカラフルでいいと思うけど少し離れたら緑があって落ち着ける場所があるといいと思う
- 建物がズラッと並んでいる町ではなく、家と家の間に少しずつでも木や花を植えたらみおっしゃる美しい町になると思います
- 地域の中の人とかに「うつくしいまち」とはどのようなことを考えているのかについて聞いてそれを実現できるように行動する
- 自然と人が共生できる街にするべき
- 自分で育てている花や植物などはなるべくちゃんと育てる
- 余計なことをしない
- いろいろな緑を植え多様な植物がいる町にする
- 外から来る人を増やす
- みどりのイベントなどを開き緑について考える場を作る
- ところどころにさりげなく緑があるかんじにする
- 僕は満足している
- まちの人と仲良くする



212名の方にご協力いただきました。

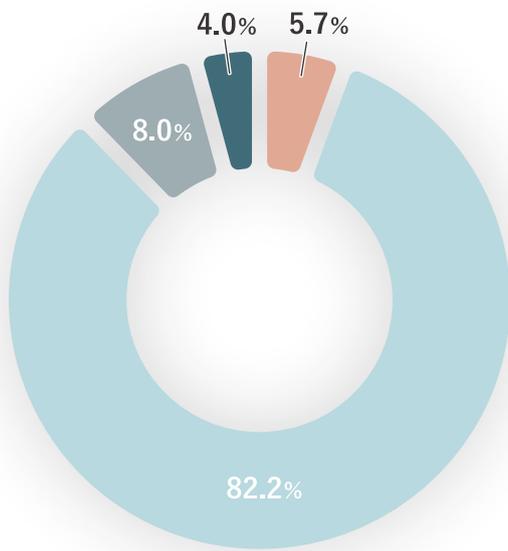
その他ご意見については、P.159をご覧ください。

令和5（2023）年度に行った杉並区区政モニターアンケートにて、174名の方に回答をいただいた集計結果を一部掲載いたします。



あなたは、あなたのお住まいの地域の景観に満足していますか。

- 満足している
- だいたい満足している
- どちらとも言えない
- 少し不満がある
- 不満がある



杉並区では、良好で美しいまちなみや景観をつくるため、これまでも条例を設置し、計画に基づき景観づくりを進めてきました。あなたは、区の景観づくりについてどのくらい関心がありますか。

- 景観づくりに非常に興味があり、区の実施についても知っている
- 景観づくりに興味があるが、区の実施まではわからない
- 景観づくりに興味はあるが、「景観」という言葉を聞いたことがある程度である
- 景観づくりに興味はない



地域の歴史や文化を生かしながら景観づくりを進めることは、そこに暮らす人々が郷土を今まで以上に意識し、「地域への愛着、誇り」をより強く持つことにつながるとともに、「ゆとり」や「潤い」、さらには、「生き生きとした快適な生活」をもたらします。

杉並区は、古くは農村地としてみどり豊かな地域でした。昭和に入り人口が増え、住宅都市として発展を続け、現在のまちなみが広がっています。昔からのみどりを継承してはいるものの、市街化は進み、古くから残るみどりやまちなみをそのまま残すことが難しい状況です。

また、景観に対する意見や価値観は「何が良好な景観か」、また、「目に見える眺めと機能のどちらを優先するか」といった観点から様々で、葛藤や相反するものもあります。例えば、「みどりを増やしてほしい」という声がある一方で、「樹木が道路にはみ出したり、落ち葉や虫が迷惑になる」という声があります。

また、道路が安全に整備されることを願って、無電柱化や区画整理を望む声もあれば、駅前の商店街が生み出す雑多な雰囲気を残してほしい、という声があります。

そのような中でも、互いに歩み寄り、美しさ、統一感、個性、安全、安らぎ、にぎわい、懐かしさといった多種多様な価値が織り交ざり、調和していくことで杉並らしい景観が形成されます。それらは、公有のものに留まらず、その多くが民間所有の土地や建物など、私有のもので構成されていきます。

良い景観を残し、生み出すためには、行政と区民、事業者がそれぞれの役割を担い協力すること、またそのことを広く伝え、意識を高めることが必要です。

現在残っているみどりを可能な限り保全するとともに、新たなみどりを創出し、時代の変化に応じた快適な生活とみどり豊かでその地域らしいまちなみの形成を区民とともに実現させるため、本計画では、4つの景観要素に対応した課題を設定し、よりよい景観づくりに取り組むこととします。



桃園川（高円寺南4丁目付近 大正9年（1920年））

1 生活的要素

市街地の景観形成に関する課題

住宅地の景観誘導やみどりの創出

住宅都市として発展してきた杉並区は多くの住宅が建ち並んでおり、住宅地によって区の景観は形成されているといっても過言ではありません。そのため、区民や事業者に向けて景観づくりの普及啓発を図るとともに、建築物等の更新などの機会を捉え、景観誘導やみどりの創出を図っていく必要があります。

近年は、農地や樹林地の宅地化や、敷地の細分化が進み、住宅地でみどりを十分に確保することが難しくなっています。このため、生け垣や花壇など道路沿いの緑化だけでなく、宅地内の草花や樹木の植栽、ベランダや窓先、壁面や屋上など、様々な空間を生かした緑化が求められます。

防災都市基盤の整備に合わせたまちなみ形成

首都直下型地震等の災害に備え、総合的な防災都市基盤の整備を推進していくことは、暮らしの安全を確保するための区が果たすべき重要な役割です。そのため、狭あい道路*の拡幅整備をはじめとした基盤整備による景観づくりに取り組んでいく必要があります。

商業地の景観形成と誘導

区には数多くの個性的な商店街があり、独自の景観をつくり出しています。商店街の休憩スペースや植栽は訪れる人々の心を和らげます。また、看板やデジタルサイネージ*などの広告物は景観にも大きく影響するため、まちなみの美しさを損なわないよう、周囲に配慮した色彩、デザインや規模にしていく必要があります。

桃井原っぱ公園

災害時は周辺の消防署、警察署、病院等と連携した避難拠点となる

2 自然的要素

自然と調和した景観形成に関する課題

水辺環境との調和

区には、善福寺川、神田川、妙正寺川のほか、玉川上水が流れており、その周辺を重点的に景観づくりを進める地区として定めています。そのため、河川等と周辺のみどりが調和した景観づくりを引き続き行っていくとともに、公園の周辺等については、みどりと調和したまちなみづくりに配慮していく必要があります。

生産緑地やみどりの減少の抑制

多くのみどりと共に住宅都市として発展してきた杉並区では、樹木等の保全が地域の良好な景観の維持、創出につながっていますが、近年は生産緑地*など、まとまったみどりの減少が課題となっています。豊かなみどりは、安らぎを与えるとともに、二酸化炭素の吸収にも役立ちます。地域の良好な景観をつくる樹木等の保全を図ることも必要ですが、ゼロカーボンシティ*を目指す観点から、新たなみどりの創出も重要な課題です。

公園などの憩いの空間づくり

公園など自然を感じられる広いスペースは、訪れる人に安らぎを与えます。区には多くの公園がありますが、新設・改修の際は専門家等の意見を聴きながら、良好な景観づくりを進める必要があります。

桃井原っぱ公園

災害時は周辺の消防署、警察署、病院等と連携した避難拠点となる

3 公共的要素

公的空間の整備に関する課題

道路や駅前の魅力の創出

生活に密接にかかわる道路は、幹線道路沿いの街路樹、道路のカラー舗装や無電柱化などによって、安全面と美しさを兼ね備え、歩いて楽しめる空間の創出につなげることが必要です。駅前、鉄道を利用して区を訪れる人の玄関口であり、まちの魅力を印象付ける大切な空間です。駅前広場にベンチや花壇を設置して、人々が集ったり休憩したりできる空間の創出も求められています。

こうした公共空間においても、区の魅力を創出するような良好な景観づくりを進めていく必要があります。

公共施設の景観誘導

区内には様々な公共施設が点在していますが、老朽化や区民ニーズの変化により、過去に建てられた多くの施設が、建替や改修、用途の変更等を必要としています。

また、特に学校や地域区民センターなど規模の大きな施設はまちの中でも人々の目に触れる機会が多く景観にも大きく影響します。

公共施設の建設や改修の際は、景観の専門家等からの意見を聴取し、周囲の景観に配慮するとともに、地域に長く愛着を持たれる施設として、地域の良好な景観づくりの先導的な役割を担っていく必要があります。

4 文化的要素

歴史と文化の継承に関する課題

歴史的資源の保全と活用

区内にある遺跡や寺社、文化財などの歴史的資源からは、区の歴史を色濃く感じることができません。歴史的資源を保全し、後世に引き継いでいくためには、その魅力を伝えていく普及啓発活動を進め、区民の関心を高めていくことが必要です。

地域の個性や魅力を生かした景観づくり

区内には、東京高円寺阿波おどり等の文化的行事など、地域の個性を生み出す資源が数多くあります。駅周辺の商店街などの個性的な商業文化もそのひとつです。

こうした区固有の有形無形の資源を発掘・活用しながら、地域ごとの個性や魅力を生かした景観づくりを進めていく必要があります。



大宮八幡宮



区役所屋上から見た区内展望（昭和28年（1953年）1月）



荻窪駅東側大踏切（昭和19年（1944年））